

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291300182		
法人名	有限会社ワイオハ		
事業所名	麗翠堂グループホーム		
所在地	千葉県野田瀬戸965-1		
自己評価作成日	令和 4 年 5 月 9 日	評価結果市町村受理日	令和 4 年 6 月 30 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人人材パワーアップセンター		
所在地	千葉県松戸市総台一丁目25番地6		
訪問調査日	令和 4 年 6 月 3 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

カラオケや体操を取り入れ利用者様の交流の場になっている。
 毎食手作りの食事を提供し一緒に出来ることは手伝って頂いている。
 施設内の空きスペースを利用し職員と利用者さんが一丸となって畑を作り、ナス、きゅうり、トマト、ピーマンを栽培し、梨、葡萄、みかんの木も植えて、職員と利用者さん全員が楽しみに育てています。
 天気の良い過ごしやすい日は外で食事をしたり、踊りを職員と一緒に踊ったりと楽しみも多くなります。

施設は緑に囲まれた環境に立地しています。ガーデンに畑スペースを作り、収穫した新鮮な野菜は食材として使います。花壇の花々もよく手入れされ、何種類もの果樹により季節感を取り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしています。また、施設のガーデンでのバーベキューで街中ではできない楽しみ方も工夫しています。代表者の方針で利用者サービスの向上を目的に職員の質を高めるため、研修への参加、資格取得等を積極的に支援しています。そのため職員は日々利用者に温かい心を寄せて接し、仕事に意欲的で働きがいを持って勤務している様子が伺えます。施設内では歌の好きな利用者はカラオケを楽しみ、猫好きの利用者は施設で飼う猫と過ごせるなど様々な癒しの機会を提供して利用者の満足度を向上させる工夫があります。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	グループホームの玄関に事業所理念等に関する掲示をし、日常の業務の中に取り入れ利用者さんと接しています。	管理者と職員は理念である、利用者の能力に応じた日常生活の営みができるよう、必要な生活支援と機能訓練を実施し、利用者及び家族の身体、精神的負担軽減に努めています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の小中学校と交流をとり、運動会などの学校行事に参加させていただけるようにしています。去年と今年はコロナの影響で厳しい状況ではありません。	施設は町内会に参加し、地域の一員として日常的に交流しています。コロナ禍で出来なかった運動会の見学を今年の5月に小学校で行うことが出来、秋には中学校での見学も予定しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ここ1年は特に何も出来ていないので、外出を自由にできるようになったら、いろいろと地域の人々へ理解をしていただける活動をしたと思います。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は運営推進会議を行っていませんが、今後実施できる環境になればサービス向上に活かしたいと思います。	コロナ禍のため運営推進会議の開催は行っていませんが所内のイベントや利用者の日常の状況などを記載した運営推進会議報告書を作成し、保管していますがメンバーへの配布は必要に応じてのみ、行っています。	運営推進会議報告書は作成後、メンバー全員に配布し、意見、アドバイスを求めることを勧めます。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	疑問点やわからない事など相談させてもらっているので協力関係は築けています。	生活保護対象の利用者のため、行政等の関係先との連携を密に取っています。定期的に市の窓口担当者への連絡の他社会福祉協議会担当者による現場確認の訪問を受けています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	月に1回のミーティングを実施し定期的に身体拘束排除に関する取り込みの話し合いをしています。	玄関は防犯上と徘徊する利用者の安全管理のために施錠しています。所内ではミーティングで身体拘束について対処方法の話し合いを行っています。また、ワイオハ本部で毎月一度実施される外部講師による研修会に職員が参加をしています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者の気持ちを考えて声掛けする。介助は無理強いをしない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部より講師を招き、定期的に権利擁護についての知識を身に付けています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や法改正などの制度の変更など、職員が的確に理解し、利用者並びに家族に納得していただける説明をしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議を活用し定期的な意見交換を実施しています。	利用者や家族からの要望を受けた場合は速やかに管理者に報告します。また申し送りノートを活用し情報を職員全員が共有します。これをもとに解決策や対策を話し合い、実行に移していく仕組みが整っています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者ミーティングを毎月実施しており、管理者同士の交流や代表者を交えての意見交換を行っている。	本部代表者と施設管理者は職員との間に壁を設けず、意見や要望を聞く環境が整っています。職員の質の向上を図るために勉強会や研修会への参加を積極的に支援し、利用者へのより良いサービスの提供を目指しています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスの任用要件を制定しており、昇給や昇格に関する仕組みを作っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部から講師を招き研修を受けられ環境を整えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流はできていないので今後の課題とします。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者さんや家族の思いに耳を傾けていますが、なかなかすべての利用者さんとの		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入の相談は家族からが多いので、丁寧な対応を心掛け安心して利用して貰えるよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他のサービスは基本的に受けられないので、グループホーム内で完結できる支援をしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	共同生活を送る。という家族の一員としての役割を持てるように意識してもらえるような心掛けてます。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居されると家族が疎遠になるケースもあるので家族と本人の関係を良好を保てるような関係を作っていきます。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人などの外部との交流が出来ないので今後の課題と致します。	コロナ禍のため頻繁な交流は制限している中で感染予防対策を取りながら出来る限り面会を支援しています。歌うことが好きな利用者のために施設内ではカラオケ設備を設置して以前のように楽しんでもらう工夫をしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性は把握できているが、利用者同士が支え合っている所まではできません。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても相談や支援には努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや意向の把握には努めています。	職員は日常の支援活動を通して、それぞれ利用者の生活習慣や行動を観察し、思いや意向を把握します。また、申し送りノートを活用して職員全員が利用者の希望や思いを共有し、支援が行える環境を作っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴などその方の人生、生き方には理解と把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の中で出来ることや、やりたいことなど実践していけるように努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	十分なチームづくりでの介護計画作成には至っていません。	介護計画の作成は入所時に関係者及び家族や本人と話し合い本部の担当者が作成しています。入所後の見直しは状況を記録に残し、一年に一度行うことになっています。	介護計画は本部との連携で利用者の状況変化に応じた見直し、修正を適宜行うことを期待します。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録はこまめに記入し職員間での情報共有はできています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	柔軟なサービス提供はできています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用は十分にできていません。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	適切な医療は受けられるように支援しています。	まだクリニックから月2回医師、看護師の訪問診療を受けています。連携病院として松戸市、柏市、野田市にある病院とも協力体制があります。それ以外にも利用者が入居前からのかかりつけ医への受診も出来るよう支援しています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの医療連携を行っているので協力体制は整っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院内の医療連携室と入退院の関しての連携に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作成し、家族から同意を得ている。	入居時に家族から依頼を受けて、重度化や終末期に向けた方針の説明書と同意書を作成しています。実際に看取り期に入った場合、医師と事業者との確認を進めて支援しています。生活保護受給の利用者については随時市の担当者へ報告し、社会福祉協議会担当者との連携を図っています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当の初期対応の訓練は定期的に行っていないので、今後の課題です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域との協力体制は十分に築けていないので今後の築いていきます。	今年度の計画は、6月に堀内防災による AED 講習と秋頃に消防署と連携して避難訓練を実施する予定です。地域との協力体制はまだ十分に築けていませんが、今後運営推進会議のメンバーである町内会長に呼びかけて協力を求めていきます。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	あまり固くなりすぎる言葉使いはしないものの、人格や自尊心を傷つけるような言葉かけや対応はしていません。	毎月1回の職員ミーティングで、利用者へのプライバシーに配慮した言葉かけや接し方について検討しています。また一人ひとりの人格を尊重してこれまでの人生に敬意を払う言葉かけや対応をしています。そのための勉強会(本部にて、外部講師による)にも多くの職員が参加しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者さんの思いや希望を表現しやすい環境づくりは出来るように心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者さんのペースに合わせて落ち着いた生活が送れるように考えています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おしゃれや身だしなみは普段、本人に任せています。外出などの機会がある時は身だしなみなど職員も一緒に支援します。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事づくりは他の利用者さんの意見もあり、一緒に行うことがなかなか出来ないが、下膳から洗い物は手伝ってくれます。	準備、盛り付け、配膳、食器洗いなど利用者ができることを手伝ってもらえるよう支援しています。普段の食材は業者から届き、毎食職員の手作りですが、利用者の誕生日やクリスマス会では特別メニューをテイクアウトしたり、季節に応じてBBQなど屋外での食事を楽しんでいます。卵をほぐす、皮をむくなど、簡単な作業も利用者ができるよう工夫しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	日々の状態や生活の記録を個人ごとに記録し職員同士が共有できているので栄養摂取、水分補給の支援は問題ないと思います。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の先生との連携、日々の口腔ケアの記録を活用して一人ひとりの良好な口腔状態の維持に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排せつ表を活用し、自立しての排泄が困難な場合の利用者さんに対し、失敗をせざるべくトイレでできるように支援しています。	排泄表を活用し、自立しての排泄が困難な利用者に対し、立ち上がりの介助や言葉かけでトイレで出来るよう支援しています。また足・腰の弱い利用者に対してはポータブルトイレを用意しているが、職員が歩行介助をしてトイレに付き添う支援をしています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の提供方法や水分補給、適度な運動などに取り組み便秘などの症状緩和に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度のルールはありますが、利用者さんが不満を持たないように気持ちよく入浴できるように支援します。	入浴方法のルールは週3回、午前・午後と対応しています。一人一人の好みやタイミングに合わせて入浴を楽しめるよう、例えばバスクリンなどで香りを楽しんだり歌の好きな利用者へは一緒に歌ってあげるなどして、入浴時間も制限せずに個々に沿った支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣となる消灯時間や朝の起床などのリズムを整えているので夜間の安眠を確保できていると思います。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期的に薬剤師の方が訪問され、薬剤の説明を受けており、薬剤の変更があった場合も同様に説明を受けられるので、理解できています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合わせてのイベントや定期的な外出により毎日の生活がマンネリ化しないように気分転換の支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	普段いけない場所など、家族や地域の人々の協力を得ての支援は出来ていないので、今後地域の方々の交流を深め支援や協力が得られるようにしていきます。	日常的な外出支援は、花屋やドラッグストアへの買い物や、他科受診の時に職員が車で同行しています。普段行けない場所への外出は、生保受給、家族の協力が無い利用者へは事業所に対応しています。地域の方々との交流としてコロナ前は近くの小学校の運動会で一緒に応援できたが、今年は周囲をぐるっと散歩しながらという形で行いました。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理を依頼されている方に関しては、無駄に使うことがないように計画をもって使えるように支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人からの依頼があれば、協力しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には利用者さんの写真や作品、季節の花の写真など展示し気持ちが和むよう配慮しています。	共用空間のリビング、廊下に利用者で作成した季節に合わせた作成物(折り紙や輪飾りなど)が多く飾られ、イベント時の利用者の写真もよく見える位置に貼られており、気持ちが和むような配慮がなされています。庭の一部に畑スペースを作り夏野菜を育てて収穫したり、花壇の花々もよく手入れされ、果樹が何種類もあり季節感を十分に取り入れて居心地よく過ごせるような工夫をしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分で独りになれる空間は作れていないので、工夫が必要です。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室については、使い慣れた物の持ち込みなど自由にしていただいております、居心地よく過ごせています。	利用者それぞれの居室に使い慣れたもの(時計、ラジオ、丸テーブルと椅子など)を自由に持ち込んで居心地よく過ごせるよう工夫をしています。家具の仏壇は置けなくても、利用者が小さなスペースで工夫してみたり、自分で完成させた好きな塗り絵を壁いっぱい飾っておけるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	特に問題ない構造ですが、自立した生活が送れるような工夫は出来ていません。		